

# 新年のご挨拶

院長 沼尾 利郎

あけましておめでとうございます。皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

さて、昨年は前年同様に当院にとって大きな変化の年でした。1月には念願の電子カルテが導入され医療の効率化が大幅に改善しましたが、医療安全や医療の質の向上のためには今後も継続的な努力が不可欠です。4月には芳賀紀裕先生が臨床研究部長（がん診療部長兼任）として赴任され、臨床と研究の両面において活躍しています。

7月には病院の中期計画（ロードマップ）の1つである「地域医療支援病院」が栃木県から承認され、当院は名実ともに地域中核病院となりました。さらに8月から「病棟薬剤業務」も開始しており、医師・看護師の負担軽減だけでなく薬物療法の質的向上などにも大きな貢献が期待されています。昨年末からは大学病院の研修医も受け入れており、臨床研修病院としての使命もますます重要になっています。

このように変化の時代は今年も続く訳ですが、良質で丁寧な医療を提供することに変わりはありません。「良質で丁寧」といえば、英国を代表する画家であるターナー（1775-1851）の回顧展を観る機会が最近ありました。彼は卓越した写実力で名声を確立した後も伝統に安穩せず、常に新しい表現を模索し続けた挑戦者でした。「大作でも細部まで精巧に描き込んでおり、何げない風景ながら人の心に響く表現」「斬新な技法と繊細な色彩で人の心をつかむ作品」。当院の医療もそうありたいものです。

時代がどんなに変わろうとも、私たちがなすべきことは変わりません。当院が目指すのは「安全で質の高い医療を患者さんの視点に立って提供すること」であり、「患者さんや地域から信頼され、職員にとっても働き甲斐のある病院の実現」です。地域との連携をより一層進化させながら、地域医療と政策医療に貢献すべく努力いたしますので、本年も皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



ターナー「レグルス」 1828年 発表